

会議の名称	第6回 合志市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議	
開催日時	平成29年6月29日 午後1時30分	
開催場所	合志市役所合志庁舎2階庁議室	
議 題	平成28年度事業の実績報告と平成29年度事業に関する意見交換	
会議の公開・非公開の別	公開 ・ 非公開 ・ 一部非公開 〔傍聴者2名〕	(一部) 非公開の場合、その理由
出席者	委員	山辺一範、上田耕太郎、下津浦一博、三城大介、飯村秀敏、高野剛一、的場亮、池永けい子、坂本夏実
	行政	坂本政誠、工藤一伸、古閑瑞樹、九重浩光、鷹巣孝之、太田徹、渡辺良輔、坂井晴代、栗木清智
欠席委員	平田 政臣	
議事内容	①賑わいある街並み創造推進事業	
	《委員の意見等(要旨)》	
	委員	KPIの「マルシェの来客者数」は、何名くらいか？
	まちづくり対策室	1回目は平成28年1月に開催し、500～600人だった。1月ということで暖かい時間帯が短く、実質的に時間帯は10時から15時ごろまでしかできなかった。時間、あるいは駐車場の環境があまりよくなかったにもかかわらず、来場者は想定していたよりは多かったのではないかと思っている。
	委員	合志市に来て改めて思ったのが、農産物にしても加工品にしても合志市には良い物があるということを感じた。これを知らない人が結構いるような気がする。告知をすると結構来る人が増えると思う。そうすると、生産者の動機付けやモチベーションアップにつながると思う。
	まちづくり対策室	新聞の折り込み広告をした。御代志の三角地は、熊本電鉄の終点御代志駅の近くなので熊本市方面からのアクセス性が良いので、今後はFacebook等を活用しながらイベントを継続的に実施したいと思う。
	②女性の「ワーク・ライフ・デザイン」サポート事業	
	《委員の意見等(要旨)》	
	委員	受講者が減ったことについての対策を聞きたい。
	女性・子ども支援室	まず、地域サポーター養成講座については、初年度が30人、昨年度が12人と減っている。今年は、周知をもう少し幅広く、色々な施設とか機関とか周知を徹底して行いたい。女性・子ども支援室自体のこと、こういった業務をしているということから周知していく。我々スタッフだけでは追いつかない部分もあるので、地域の皆さんと一緒に問題を認識していただき、こちらにつないでいただくということだけでもお願いできないかと考えている。 ステップアップセミナーについてはH28年度が4人ということで、極端に減ってしまった。委託した業者と我々が周知をしたときに「子育て世代のための就労支援セミナー」と銘打って募集をしたので、対象がやや絞られてしまったという経緯があった。子どもが居て、ちょうど育児をしている方々のためのセミナーなのかということで対象が絞られてしまった。健診が行われている会場を周ってチラシを配ったが、7割から8割の人は既に仕事をしていると言われていた。対象を絞り込み過ぎたということが(減った原因に)挙げられる。基本的には対象を絞る必要は無いので、女性ということで、子育て世代だけではなくて40代から50代とか、育児・子育てが一段落した人達とか、今後は対象を増やして周知していきたいと考えている。
	委員	時間がなくて受講できなかった方もいると思うが、昨年はどのような時間帯で実施したのか。
	女性・子ども支援室	10月からの金曜日、水曜日ということもあったが、午前中、10時から12時にサポーター養成講座は実施した。学校の先生であるとか、この時間帯が仕事という方には受けにくいところがあったかと思う。講師の日程もあるので調整が難しいが、多くの方が受けられるような工夫していかなければならないと思う。
	委員	回覧板での周知も行くと、より多くの方が講座のことを知ることができると思う。

委員	基本目標について「結婚、出産、子育て」という所で、数値目標で「出生率を高めるといふ」言葉があるが、子育てに重点を置いている施策が多いのかなという印象を持った。結婚を促進する、出生率を高める施策は何か考えているか。市内での今の既婚率について調べているものがあれば、教えていただきたい。
女性・子ども支援室	女性・子ども支援室では、直接的に関わる事業は無いが、基本的には相談業務が多くを占めている。自立支援プログラムであれば、就職の部分での関わりがある。もう一つの地域サポーター養成講座で、一人でも多くの潜在的に悩んでいる女性の方たちをつないで、例えば悩んでいること、パートナーが居なくなったり、出産の、結婚あるいは離婚で悩んでいるとか、そういった相談に乗りながら一緒に解決していくという部分でお手伝いをしている。
委員	内容については硬い印象があり、柔らかいところがないと浸透しづらいのではないと思う。例えば子育てについても、悩みがあってもどこに相談すればよいのか判らないということがあるとするなら、イベント等の中で専門の相談員に相談できるような、入り込みやすい形のものも取り入れることによって子育ての相談がしやすくなるのではないかと。柔らかくした方が広がるのではないと思う。
女性・子ども支援室	サポーター養成講座で認定を受けたサポーターの活動について今年度から考えていく。一つは、一人でも多くの地域でサポーターになっていただいて、近所でもしもの気づきがあるときに、支援室につないでいただくということがある。もう一つは、拠点的な活動も考えていて、色々な場所で活動していただくということで、例えば施設で少しずつ子供食堂が展開されているが、子供食堂のスタッフの方にも講座を受けていただくとか、すでにサポーターになった方にボランティアを手伝っていただくとか。子どもが集まる場所だけでなく、親同士が集まる場所にもサポーターが関わりを持つことによって、相談の入口になるのではないかと考えている。
委員	今まで受講された方の感想についてはどうか。
女性・子ども支援室	ステップアップセミナーについては受講者全てが就職につながって、ただの就職でなくスキルまで身に付けて終息ができたということで満足と聞いている。サポーター養成講座については、普段聞けない大学の先生から、虐待の実態など聞けて勉強になったという声を聞いている。
③健康都市こうしプロジェクト事業、健康都市こうし推進事業	
《委員の意見等(要旨)》	
委員	公園を歩いてポイントを付けて健康増進に結び付けるといふものを書いてあるが実績は。
委員	歩きに行けない方も多い。サークル活動、ミニバレーとかやっている方もいる。散歩(ウォーキング)だけでなくもう少し幅を広げていただければと思う。
健康づくり推進課	当課で言えば、健診の受診率を上げなければならないので、健診の受診者にポイントを付けるとか、健康づくりのボランティアにポイントを付けるとかいうことを考えている。
政策課	高齢者支援課とは、高齢者の方へのポイントということで、ボランティア活動に付けることができないかという協議を行っている。健康づくり支援課とも協議をしている。
委員	予算が減ったということだが、昨年度はシステム構築が含まれていたということで、今年度の事業には影響がないということか。少ない予算で活動に滞りは出ないということか。
政策課	本年度の予算はシステム運営の費用で、さらにコースを増やすとかいうことまでは含んでいない。ポイントシステムの運用については引き続き行なっていきたい。
委員	ウォーキングをしていると「ピッ、ピッ」と鳴る音が何だろうと思っていた。知らない方、判らない方もいるので今一度周知を図ってもらいたい。カード発行手数料を払っても参加したい方もいると思う。
政策課	時期をとらえて周知を行いたい。
委員	ポイントの出口がクラッシーノこうしのみということなので、幅を広げると魅力が増すと思う。
政策課	クラッシーノこうしの販売促進として(ポイントの財源を)担ってもらっている。
委員	何ポイントをクラッシーノマルシェで使い、いくらの消費につながったのか。データを把握しておいた方が良さそう。
政策課	今のところどれだけ消費しているのかは把握していない。合志市は買い物光の森や熊本市など市外に流れているということで、合志市で買い物をしていただきたいという考えでクラッシーノに限定して事業を始めた。次の広がりを考える時にも合志市の中で考えていきたい。
委員	合志市はメディアにも「健康都市こうし」と出ていて、ものすごく健康に取り組んでいると思っていた。今日の意見を生かしていただきたい。
委員	新ヘルスケア産業の実績はどのような事業か。

政策課	H27年度の実績で、ウォーキングを核としたシステム構築とポイントシステムの事業を上げている。
委員	今後の健康づくり推進課と政策課の連携はどのように考えているか。
政策課	産業の活性化と、市民と体の健康と一緒にやれるところを連携したい。産業活性化のための健康づくりイベントや講演会、地域包括ケアなどに広がる可能性がある。
健康づくり推進課	そのようなイベントの手伝いや、活動されているボランティアに入っていただくことを考えている。
④文化を核とした観光交流拠点整備事業	
《委員の意見等(要旨)》	
委員	そもそも観光資源という括りでマンガミュージアムを作ることになった経緯はどういう経緯だったか。
政策課	1期目の市長のマニフェストに「マンガ・アニメを生かしたまちづくり」があった。NPO法人熊本マンガミュージアムプロジェクトが10万冊ほどマンガを持っていて置き場所に困っていた。ヴィーブルに歴史資料館、旧西合志に郷土資料館があって二重になっていたのを、ヴィーブルの中に一本化して、建物自体が遊休施設化するということで、NPO法人にマンガミュージアムを作りたいという思いがあり、マニフェストと合致した。
委員	湯前町にもあって連携していると思うが、漫画家の方がいらっしゃったということでマンガミュージアムができた。
政策課	あちらはどちらかというと偉人館的な感じで、漫画家の方を顕彰する施設としてのマンガ美術館。合志出身の漫画家ももちろんいるが、特定の漫画家ということではなく、マンガを文化と捉えた施設として作っている。
委員	KPIに創業者数があるが、クリエイターの方が集まる基盤を作って将来的に創業者数を増やそうということか。
政策課	あくまでも副次的にはなる。チャレンジショップあたりというのは、民間の方が借りた形でそこで店舗をやるということを想定しているので、起業創業者に結び付けられればと考えている。
委員	チャレンジショップの業種は限定していないのか。
政策課	どちらかと言えば物販よりは飲食と思う。
委員	トレーラーハウスでやるのか。
政策課	ここが市街化調整区域で、建築物を建てると時間的に間に合わない。苦肉の策としてトレーラーハウス。
委員	オープニングに向けて何かやるのか。
政策課	7月22日10時オープンというのは、プレス向けでも発表する。セレモニー的にはやるが場所があまり広く取れない。夏休み最初の土日ということで設定した。
委員	入場料は大人で300円ということだが、維持管理が賄えるのかなと思うが、レンタル制のチャレンジショップをしたり、色々な手立てで考えられていると思う。発信力がなければそこに来たいという企業なども集まらないと思うので、どこかの段階で発信をしていくのが重要と思う。
委員	子どもが行ってみたい、楽しみたいと思うので、レターバスの活用なども周知していただきたい。
委員	予算の中で、効果促進事業500万円は、ソフト事業として何か考えているか。
政策課	具体的にはチャレンジショップの中の備品、施設整備費全体の中で2割認められている。ソフト事業としては、単費になるが運営、企画展等を検討している。
委員	入館料と維持管理費というのはなかなか見合うのは難しいと思うが、そこから先に新しい創業につながったり、子供たちの成長など次につながったりしていくということになれば、これを整備をした意義も出てくると思う。
⑤官民広域連携による女性輝く地域づくり事業	
《委員の意見等(要旨)》	
委員	KPI創業者3件はどのようにカウントしているか。
政策課	肥後六華の會を通じて創業された方をカウントしている。
委員	會の拠点はどこにあるのか。熊本市と聞いたこともある。
政策課	事務局は須屋にある。活動は色々なところで活動している。
委員	活動は創業につなげる活動か。

政策課	全て創業ということではなく、テレワークについても會で場所を選定して、行おうとしている。
委員	KPIは、ものすごく数字が大きいが、どのようにして52万人の観光客を取り込もうとしているのか。どこでカウントするのか。
政策課	この事業ですべてを賄うものではなく、菊池市と高森町が担うところが非常に大きい。スマートインターチェンジができることによって、合志市は交通の結節点となるのでついでに寄ってもらおうという取り組みができないか菊池市や高森町と話をしている。カウントの仕方については、数年に一度の統計を使う。
⑥未来輝くコンテンツクリエイター創業育成事業	
《委員の意見等(要旨)》	
委員	クリエイター塾を受けた方で、創業目指している方は居るか。
生涯学習課	3名いる。
委員	テレビで放送されていたと思うが、感銘を受けた。幅広い年齢層の方に番組を見ていただくことで理解が広がるのではないかな。
生涯学習課	外に向けての発信も企画していく。熊本高専でもやっているが、マンガミュージアムでやるとか、オンラインでやったりということも考えたい。
委員	クリエイターは日本を代表する産業の1つと思うが全国的に見て、クリエイター塾というものはいくつかあるのか。熊本県外の方も居るのか。熊本に縁のある有名な漫画家の方が多いが、その方々の協力を得てマンガ村にするとか、そういう構想はあったのか。
生涯学習課	似たようなクリエイター塾はいくつかあると聞いている。これまでに県外の方は2人いた。クリエイターの創業育成についてはまだまだと思う。周辺の賑わいとか、西合志図書館とかマンガミュージアムとかとの関連性も、何かしらの構想は練りたい。
委員	何かのインパクトが欲しいと思う。北九州は松本零士さんがいらっしやって、銀河鉄道999などの絵が町中にたくさんあって、わくわく感がある。
生涯学習課	よその場合、作家のふるさとというのが多いが、合志マンガミュージアムはそれとはコンセプトが違うが、いろいろな人達を取り込めるということはある。ゆくゆくは合志市で活動、携わって頂ければ良いと思う。若者の流出防止も大きな目標の一つ。
委員	クリエイターも含めて、集積による相乗効果があると思う。集積できる場所、コアテナント、「この人が居るから、あるいはこの会社があるから、ここで一緒に仕事をしていると良いことがあるのではないか」という拠点があると良い。クリエイターの定着率が良くなるのではないかな。
生涯学習課	西合志庁舎の今後の在り方を検討する中で、生涯学習課も考えているものがあるので提案していく。